

## 乳牛の暑熱対策について

今年は6月から猛(モ)暑が始まり、気温が38℃を越える日もあり、人も家畜もつらい毎日を過ごしています。今回はJFAふかや管内でも、多く飼われている乳牛の暑熱対策のお話をしたいと思います。

乳牛は、牛乳をはじめ、ヨーグルト・アイスクリーム類、牛肉として、私たちの食生活に深く関わっています。我が国で飼養されている乳牛は、大部分が北欧を原産地としたホルスタイン種で、北米の冷涼な地域で育種改良された牛です。寒さには比較的強い反面、暑さには弱いという特徴があります。その乳牛が受けるストレスで、乳量・乳質等の生産性に大きな影響を及ぼすのは、暑熱であるとい

われています。

乳牛の仕事といえる泌乳の適温帯は4〜24℃です。乳牛の体熱発生量は、体重600kgの乾乳牛で約500kWh/時、搾乳牛では、乳量15kgの場合には約1000kWh/時です。高温時は乾乳牛に比べて、



写真1 牛体へ直接散水する

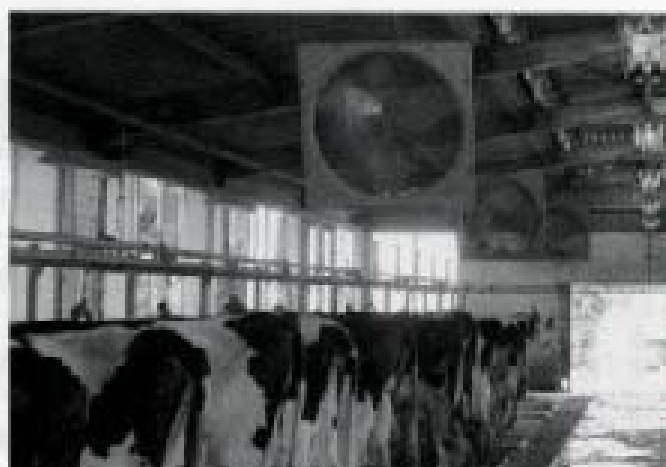


写真2 扇風機との併用が原則

搾乳牛の方が体温調節が困難であるのがわかります。

次に水を用いた暑熱対策についてお話しします。

1 冷たい水を充分に与えます。

つなぎ牛舎では、牛は飲水器(ウォーターカップ)から水を飲みます。カップはゴミが溜まりやす

く、水が汚れることがあります。牛が新鮮な水を飲めるよう、カップの掃除が必要です。

夏期の牛が1日に必要な水は、乳量15kgの搾乳牛で、30ℓ以上です。カップが故障し、牛が熱中症にならないように、この時期は特に注意しましょう。

2 涼風用ファンを取り付け、

体温を下げます。

このファンに加え、牛体に直接水を散布して、牛の体温を効果的に下げる方法を紹介します。

写真1と2は、埼玉農畜林総合研究センター畜産研究所の生産技術担当で応用している、園芸用スプリンクラーを利用した牛体への簡易散水装置です。この方法で牛の体温が1℃低下することが、試験の結果認められています。

暑熱対策を検討して、残暑を乗り切りましょう！